様式　2

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

＊科目 No.	2902

科目概要記入欄

1. 開設大学名	島根県立大学			科目開講キャンパス	浜田キャンパス	
2. 科 目 名	正式科目名 副題	地域文化論			クラス名	
					配当年次	2、3、4 年
					受入学年	
	旧科目名					
	学問分野	番号	11	名称		
	サテライトで開講される科目の科目群			Ａ群　　Ｂ群		
3. 担当教員名	矢野　健太郎					
4. 単 位 数	2 単位	5. 開講学期	秋学期（集中講義）			
6. 開講期間 曜日・時間	2020 年　2 月　17 日（月）～　2020　年　2 月　20 日（木） 月～木曜日　　9:00～18:00					
個別開講日	1 回目　／	2 回目　／	3 回目　／	4 回目　／	5 回目　／	6 回目　／
	7 回目　／	8 回目　／	9 回目　／	10 回目　／	11 回目　／	12 回目　／
	13 回目　／	14 回目　／	15 回目　／	16 回目　／	試験日　／	
7. 基礎知識の有無	1.「基礎知識を必要とする科目」　（　　） 2.「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 （総授業定員）	5 人 （　　人）	9. 定員超過時の選考方法	書類選考			

10. 科目内容・授業計画	本講義では、世界遺産である「石見銀山」を題材とし、主に近世期（戦国～明治初期まで）の石見地域の歴史や、地域社会の有り様について検討する。その際、できるだけ多くの歴史資料や古文書、古記録等を提示して講義を進める。また、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」をめぐるフィールドワークを実施する。 【到達目標】 「石見銀山」を通じて、近世社会における地域社会の有り様や地域に生きた人びとの営みについて、自己の言葉で説明することができる。 第１回：ガイダンス・史料とは何か 歴史を考察する上で、重要な「史料」について概説する。 第２回：世界遺産　石見銀山 世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の世界遺産としての文化価値や構成資産などについて解説する。 第３回：世界遺産　ポトシ銀山 石見銀山と同時代に繁栄した南米ボリビアの世界遺産のポトシ銀山について、フィールドワークの成果をもとに解説する。 第４回：銀が世界を変えた 大航海時代に銀を基軸に世界の経済や文化の交流が生み出されていった過程や、日本の社会や文化に生じた変化について、国内外の文化財を題材に解説する。 第５回：石見銀山争奪戦 戦国時代の尼子氏と毛利氏による石見銀山争奪戦の様相を古文書から具体的に論じる。 第６回：「年中行事書」から見る石見銀山支配 江戸幕府による石見銀山支配の具体像を、大森代官所の年中行事書を手がかりに論じる。 第７回：「阿部光格日記」を読む　１　―　石見銀山における武士の１年　― 石見銀山の武士である銀山附地役人の阿部光格が綴った日記から、石見銀山での生活や江戸時代の人々のライフサイクルについて学ぶ。 第８回：「石見銀山絵巻」に描かれた銀山 江戸時代の石見銀山における銀の採掘と製錬について、絵巻に描かれた場面から読み解く。 第９～１２回：フィールドワーク　世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」 フィールドワークとして、世界遺産「石見銀山遺跡をその文化的景観」の遺跡や大森の町並みを見学し、各自で実地調査を行う。 第１３回：「阿部光格日記」を読む ２　―　近世後期の　― 阿部光格が綴った日記から、近世後期の銀山附地役人の存在形態や実態について学ぶ。 第１４回：幕末の石見銀山 幕末の動乱のなか戦場となった石見銀山で起こった出来事を史料から具体的に論じる。 第１５回：石見銀山の幕末を生きた武士 石見銀山の銀山附地役人が幕末動乱のなかをどのように生きたのかについて、史料をもとに解説する。 【テキスト】 特定の教科書は使用せず、毎回レジュメを配付する。 【参考文献】 仲野義文『銀山社会の解明』（清文堂出版、2009 年） 遠藤浩巳『銀鉱山王国・石見銀山』（新泉社、2013 年） 島根県教育庁文化財課世界遺産室編『石見銀山の社会と経済』（ハーベスト出版、2017 年）		
11. 試験・評価方法	定期試験（50%）、フィールドワークレポート（30%）、平常点（20%）		
12. 別途負担費用	集中講義のうち１日は、「石見銀山」でのフィールドワークを行います。施設見学料が必要となります。		
13. その他特記事項			
14. サテライト科目の社会人受講について	科目等履修生（単位付与）として受け入れ	可	否
	聴講生（単位認定不要）として受け入れ	可	否